

## 第 32 回庭野平和賞贈呈理由

第 32 回庭野平和賞はナイジェリアの牧師で平和活動家のエスター・アビミク・イバンガ師に贈呈される。イバンガ師は 2010 年 3 月、ナイジェリアのプラトー州における女性と子供に対する凶悪で愚かな殺戮行為に終止符を打つことを強く願って「障壁なき女性たちのイニシアチブ」Women Without Walls Initiative (WOWWI) を創設した。創設当初から WOWWI は宗教と民族の壁を超え、女性による諸団体を結ぶ強固な連合体となり、ナイジェリア国内の紛争地域で平和を求める女性たちが声を挙げやすい状況を形成してきた。WOWWI は女性の発言力を前面に打ち出し、平和構築に向けて女性が活発に役割を果たせるような場を提供したのである。記録によれば、WOWWI はキリスト教やイスラームの女性指導者をはじめ、すべての民族の女性指導者がメンバーに名を連ねた最初の団体である。こうした女性指導者たちは、自分たちが住む村や町のさまざまな地域社会の窓口として活動し、特に青年や地域の利害に関わるすべての人々にコンタクトが可能な存在である。勇敢で献身的な宗教指導者であるイバンガ師は、相対立する宗教や民族グループ間の融和を促進するために幅広い活動を続けてきた。

イバンガ師は、ナイジェリアの紛争解決と和解に向け、女性による創造的、非暴力的、包括的アプローチの開発など、WOWWI のビジョンの実現を弛むことなく追求した。WOWWI には多くの目標がある。それは（１）あらゆる分断を超え、国内および海外の女性を作る団体と強力に連携すること、（２）他分野で影響力を持つ女性たちと協働し、平和構築で女性が果たす重要な役割への認知を高めること、（３）女性独自の方法論やアプローチによる集中的・総合的な平和構築の研究に対し、援助し参加すること、（４）特に政治・経済面における女性の能力向上を意図した訓練プログラムを拡充すること、（５）プロジェクトの継続を可能にするため、政府、地域団体、国際組織、さらに個人とも協働すること、（６）女性や民間団体を対象に、ジェンダーの知識、紛争解決、平和構築に関する訓練を行なうこと、などである。さらに WOWWI は、特に紛争地域の女性や子供たちの人権擁護を確保するため、法律の制定を迫っている。

こうした目標の達成に向け、イバンガ師の主導のもと、WOWWI は諸技能の習得による女性の能力向上に断固とした姿勢で取り組んだ。また地元産ビールの醸造に携わる女性たちのために、マイクロファイナンスや転職プログラムを実施した。ナイジェリアを含め、アフリカ

のほとんどすべての紛争の最大の被害者は女性と子供である。そしてまた、女性は母親として、人間の最初の教育者でもある。なぜなら教育は家庭において、そして母親の膝の上で始まるからである。そうしたことから、イバング師の取り組みでは、生活の中で女性は男性（父親・兄弟・夫・息子）に対し非常に大きな影響を与えられることを認識することで、女性の仲裁者としての能力を伸ばし活用することに重点を置いている。彼女は自国のナイジェリアで起きたボコ・ハラムによる少女誘拐事件を最も声高に非難した宗教者の一人であり、抗議デモを行なうとともに、ナイジェリア政府と政府の意思決定者に対し、女性の不当な扱いと虐待の問題に取り組むよう要求を続けてきた。利己的な動機から宗教を利用し、青年たちを暴力に駆り立てている政治家や宗教指導者や軍事指導者の発する声に対抗し、イバング師は母親たちの建設的な声により大きな力を与えることで、創意に満ちた青年の役割を提唱した。

さらに、こうした目的の達成に向け、WOWWI は革新的な取り組みを行なった。ジョスの危機の際には、二度にわたり女性の抗議活動を先導した。それは暴力の終結と平和に向けたアピールであり、被害者への正義と加害者に対する法の裁きを求めて行われたものである。WOWWI は、女性や子供を中心に 500 人を超える村民が一夜のうちに殺害されたドゴンナハワ村などの地域で、紛争の被害者となった女性や子供たちに対し救援物資を贈った。また、治安機関、長老、伝統的支配者、宗教指導者、政府組織など関係者を訪ねて平和を訴え、ジョス市内の政情不安定な地域に住む女性や青年とともに、平和活動や平和教育に関するフォーラムを開催した。さらに WOWWI は女性を代表し、ルワンダ、南アフリカ、オーストリア、アメリカなど多くの国々で開かれた国際会議や国際フォーラムに参加し、他の地域団体や国際組織と平和構築や紛争の解決を求めて緊密に協働した。また、イバング師は国際連合のジュネーブ事務局に、「マイノリティーを標的とする暴力および凶悪犯罪の防止と取り組み」と題する論文を提出している。

WOWWI は女性や子供たちに向け、技能の習得や能力向上のためのプログラムを開始したが、現在でも彼女たちが最重要と位置付けているプログラムは、女性を対象とした紛争処理訓練のためのワークショップである。WOWWI はテロへの対抗策として、地域住民と警察の間の信頼醸成を図る「警察と地域の対話」を、他に先駆けて開始した。WOWWI は同じプラトー州で平和構築に従事する他の活動家と協働し、平和カーニバルや州内の小中学校における「物語づくり活動」を行なった。それは子供たちに自己表現や平和構築に積極的に関わる機会を提供し、さらに重要なことに、小さな子供たちに向けて、自分たちを取り巻く戦争状態とは異

なった生活が可能であることを伝える場となった。また WOWWI は、過去 3 年間に紛争によって被害を受けた 6 人の子供たち（3 人のキリスト教徒の少女と 3 人のイスラームの少女）に対し、アメリカで行なわた「トラウマ・ヒーリングと和解のためのワークショップ」への参加費用を提供した。

平和と和解を追求する中で、WOWWI はジョスのカボング地区で 2010 年 12 月に爆弾によって脚を失った二人の女性に義足を贈呈し、同じくジョスのアングワン・ルクバ地区では「平和の井戸」と呼ばれる石油試掘用の井戸を設置した（共にキリスト教地区）。またディリミ地区に住む身障者に対して 13 台の三輪車を提供し、ガンガレ地区では老朽化した小学校の校舎の改装を行なった（共にイスラーム地区）。

庭野平和賞は、平和共存の追求を通じたエスター・アビミク・イバンガ師による人類への貢献を表彰する。イバンガ師は数多くの人々の人生に感動を与え、WOWWI を創設し先導することにより、さらに他の多くの人々に大きな影響を与えている。イバンガ師の平和への貢献を顕彰し、2015 年の庭野平和賞を贈呈する。